



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学・ソウル大学校合同学生実習について：中川研究林に於ける合同学生実習（森林動態実習）
Author(s)	守田，英明
Citation	北方森林保全技術，第25号，62-65
Issue Date	2007-11-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73086
Type	departmental bulletin paper
File Information	2006-25_1-9.pdf



I-9 北海道大学・ソウル大学校合同学生実習について —中川研究林に於ける合同学生実習(森林動態実習)—

守田英明

中川研究林

はじめに

北海道大学農学部森林科学科とソウル大学校農業生命科学大学山林資源学科との合同学生実習として、2003年より実施され3回行われた。2006年は両校の日程が合わず、別れて実施された。

その間、ソウル大学校南部演習林で行われたソウル大学・北海道大学合同実習へ技術職員も実習補助として、2003年(中川研究林、水野・守田)、2004年(中川研究林、金子)、2005年(森林圏管理技術室、有倉)が同行する機会を得、北方森林保全技術、第22号、第23号および第24号で既に報告がなされている。今回は、中川研究林での合同学生実習について報告する。

1. 中川研究林に於ける合同学生実習(森林動態実習)について

実習場所は、中川研究林・天塩研究林・サロベツ海岸林・天塩川河畔林で実施された。

実習日程は、2005年6月27日から7月1日までの5日間の日程で行われた。

対象者は、森林科学科3年生とソウル大学山林資源学科2年生及び院生である。

1) 参加者について(年度別参加者は、別紙年度別参加者一覧表参照 表-1)

今回の参加者は、北大・教員8名、学生25名の計33名、ソウル大学校・教官3名、院生3名、学生22名、技官4名の計32名が参加し、総勢65名である。そこで、宿泊が大問題となり、中川学生宿舎と天塩研究林教員宿泊所に分宿した。

中川学生宿舎には最大45名泊であるが、学生合わせて47名、北大・教員1(当林林長)、ソウル大学・教官2名、院生女性2名の総勢52名が宿泊した。そこで、宿泊室から溢れた人は、管理室に北大教員1名、実験室で北大学生6名に泊まって貰った。

天塩研究林には、男性だけの北大・教員7名、ソウル大学・教官1名、院生1名、技官4名で、13名の宿泊をお願いした。どちらの宿泊施設も、すし詰め状態で、皆様に大変窮屈な思いをして、泊まって貰った。

2) 実習テーマについて

植生調査方法を習得するとともに、河畔、風害跡地、海岸などの大きな環境変動に伴う森林の消失や成立の実態に触れ、森林の動き・成長過程を体得する。また、安定した天然林の更新実態を観察し、森林の林分構造や時間的構造、動態に関わる環境因子の影響について考え、北方天然林の維持機構について論議する、というテーマで実施されている。

3) 実習日程内容について

第1日目 移動日である。

北大農学部前を12時にバスで出発し、新千歳空港にてソウル大学参加者と合流後、中川学生宿舎へ向かい19時頃に到着した。夕食後にガイダンス、教員・教官の講義が行われた。

第2日目 今日からフィールドを使つての実習である。

午前中は、中川研究林パンケ山付近（洞爺丸台風被害地）の森林観察を行い、午後からは、植生調査を実施するため天塩研究林（アカエゾマツ山火事跡地）へ行つた。

内容は、植生調査方法の習得です。①高木層，低木層，草本層すべての調査。②林分の樹冠投影図，側面図の作成。③サイズ構造及び林床植生のまとめを実施した。内業は、夕食の前後に各班毎に資料整理、その後、討論（調査結果の発表会）を行つた。



写真-1 山火事跡地の植生調査風景



写真-2 山火事跡地の植生調査風景

第3日目 サロベツ海岸林とサロベツ湿原で観察・調査を実施した。

内容は、①砂丘上の海岸林の構造と世代交代。②湿原植生の観察。③海岸から内陸に向けて構造の異なる様々な林分の観察。

調査は、海岸砂丘上のトドマツ林を対象に行い、班毎に発達段階の異なる林分にプロットを設定した。

調査項目については、樹木のサイズ、稚樹の伸長量、および林床の光環境などの測定を行つた。内業は、夕食の前後に資料整理、その後、討論（発表会）を行つた。



写真-3 サロベツ海岸風景



写真-4 サロベツ原生花園



写真-5 トドマツ林調査地風景



写真-6 ドマツ林調査説明風景



写真-7 トドマツ林プロット調査風景



写真-8 ドマツ林調査結果の発表会

第4日目 中川町内の天塩川河畔林で調査を実施した。

内容は、ヤナギ類を中心とする河畔林の成立過程の把握が目標。

①河畔林の横断的構造、地形測量、林分概況のスケッチ、林分区分。②区分された林分毎にプロット調査。③樹齢構成の調査。④土壌条件などの測定を実施した。

調査が早く終了したため、帰宅後、内業の資料整理、討論（発表会）を早めに行い、夕食までの時間に、余裕が出来たため町内の小学校グラウンドを借りて、サッカーの交流試合が行われた。その後、夕食を兼ねた合同コンパが、バーベキューの段取りに来ている数人の技術職員も加わり行われ、楽しく親交を深めた。また、二次会も時間を忘れて夜更けまで行われ、楽しい4日目が終了した。



写真-9 測量の実施風景



写真-10 概況のスケッチ風景



写真-11 宿舎での調査資料の整理風景



写真-12 交流サッカー試合風景

第 5 日目 移動日である。

中川学生宿舍を 8 時 30 分に出発し、旭川市にある北海道立林産試験場を見学(13 時から 15 時)後、北大の農学部にて 16 時 30 分頃到着し、解散している。

2. 中川研究林に於ける技術職員交流について

ソウル大学校南部演習林等の技術職員の方々が、2003 年 2 名・2005 年 4 名・2006 年に 3 名が参加されている。

中川研究林に於ける技術交流は、2003 年に 1 度だけ実施された。第 4 日目の天塩川河畔林実習が箴島地区で行われた時である。(2005 年度からは台風による被害で、河畔林実習箇所を中川地区に移動している。) 庁舎に近かったため午後より、当林林長・通訳 1 名・技官 2 名が音威子府庁舎を訪れ、会議室で技術交流を 2 時間ほど行った。

内容は、①当林の年度計画を見ながら歳入・歳出について、②各事業に於ける予定価格の作成及び入札の執行について、③直営事業による新設・維持関係の実施及び素材生産等、④研究者及び学生の受入れなどについて話し合われた。

その後、車にて現場を視察しながら学生宿舍へ移動し、交流会を終了した。また、その晩の合同コンパには職員多数が参加し親交を深めた。

技術職員交流については、通訳の方が 1 名で、実習を最優先に実施するため、技術職員同士の交流を、その都度、実施するのには時間的な余裕もなく、現状では厳しい状況である。

3. おわりに

学生実習については、現地実習に不便をかけないように注意し、学生諸君が過ごしやすく、実習後の交流を深められるよう、最優先に考えている。また、教員の方々には、宿泊等でご不便をお掛けしていることを、この場を借りてお詫び申し上げます。

技術職員交流については、学生実習のため、時間的な余裕はないが、関係者の皆様のご配慮を頂き、ソウル大学校の技術職員が参加された時には、交流会を開催いたしたく思っているの、宜しくお取り計らいを、お願いしたい。

最後に天塩研究林の皆様には、実習・宿泊に対し、ご協力・ご配慮を頂き、この場を借りて厚くお礼申し上げます。有り難うございました。

表-1 年度別参加者数一覧表

実施日	北海道大学				ソウル大学					合計
	教員	院生	学生	計	教官	院生	学生	技官	計	
2003年 6月30日～7月4日	9	1	22	32	1		17	2	20	52
2004年 6月28日～7月2日	8		22	30	1		18		19	49
2005年 6月27日～7月1日	8		25	33	3	3	22	4	32	65
2006年 6月28日～6月30日	6	4		10	1	4	15	3	23	33

注1: 2003 年北海道大学院生は通訳として、2006 年は実習補助として参加。

注2: 2006 年度は北海道大学の都合により、ソウル大学単独実習。

注3: 2006 年 6 月 26 日から 6 月 28 日までは、雨龍研究林(母子里)で実習。